

刊夕日五月十

常磐每日新聞

定額一圓五錢
 本紙の発行所
 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

或る日の會話 (八)

眞 繼 雲 山

凡夫 ねえ佛様、水のやうな、こんな世智辛い浮世が、私はつくづくいかになりました、何とかモチツと楽しい世界に逃げ出す工夫は無いものでせうか

佛様 それは有る共！その楽しい處を極樂といふんぢや

凡 でも、それは死んでから後の話なんでせう

佛 死んでから後にもあるし、死なぬ前にもある生などといふ考へにこだわることからがそも／＼極樂を距ること遠い、極樂を與へるが、わしの役目で地獄をつくるがお前たちの仕事ぢや、その地獄行のお前たちが無いことには、極樂へ迎へるといふ、わしの商賣も失業せにやならん、死んでの後にさへ極樂を恵むといふ程に、わしの慈悲は廣大無邊なんぢや、死なぬ前にも與へてあるは言ふに及ばん、與へてあるものが見えんといふは、お前たちが迷ふてゐるからぢや

凡 それでは悟れば極樂が見える、従つて極樂に住

佛 ふふうひ、では悟りた

佛 御意に御座ります

佛 お前のその一言を待つこと、わしは随分久しかつた欲生(悟りを開きた)と思ふ心とは信仰の體なりで、既に信仰の種が芽生へたからには如來地に到るも程遠いことではあるまいぞ

凡 有り難く存じ上ずます

佛 しかし、それには尙ほ以て長時の修行を要するプラ／＼と遊んで暮らすは面白い又悟つてしまへば是れも至樂の境涯ぢやが、そこに到る途中の修行といふはなかく／＼六つかしうて苦しいものぢやが覺悟はよいか

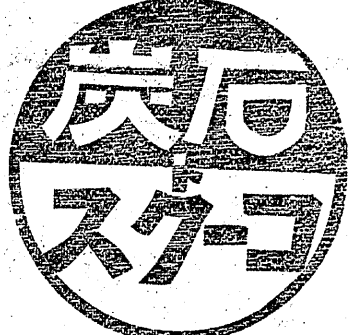
凡 へい／＼どのやうな苦勞も厭ひませぬ

潮聲俳句

(潮聲會九月例会第三十八回俳延)

殘照や一瀑かゝる岩襖
 毒草の花赤々と秋暑し
 訪へは庭に聲あり虫時雨
 友呼べばしかと聲あり秋の山
 初秋の街の灯慕ひ出にけり
 灯を消して虫の合奏聞にけり
 さびしげに鳴く虫のあり庭の隅
 秋晴れの空に飛行機飛ひつゝく
 蟬の夜もすから鳴く厨かな

二葉 文狂 北窓 長貴 孤舟 香雨 晚霞 率實子 石城



ナールほど、是レ、良イ石炭ダ
 良イ石炭ダト云フ事ハ何時モ
 聞イテ居タガ!
 此レ程良イ石炭トハ
 思ハンカツタ
 品ガ良ク
 値ガ安ク
 經濟的ニハ正ニ
 百パーセントダ

モシ／＼電話二三七番デスカ
 早く一俵御届ケ下サイ
 平 停車場前

阿部石炭商店

◇配達ハ一俵ヨリ致シマス

(院 病 濟 共)

始開療診費輕

郡内廿四ヶ町村の囑託により六月一日より輕費診療を開始

◎診療科目 内科 小兒科 外科 性病科 皮膚科 産婦人科 物理療科 耳鼻咽喉科 X光線科

◎診察料 輕費診察 五十錢 共濟會員 無料

◎藥價 一日分共濟會員 十五錢 共濟會員 無料

◎入院料 一日輕費診療 一圓以上 共濟會員 一圓以上

院長 醫學博士 石山 謙 郎
 本院 主管 賀澤 忠 治

◎衛生試験 醫化學的検査は何でも致しませぬ遠慮なく御利用下さ

◎公休日 廢止しました

◎尙御不明ノ點ハ各町村長又ハ本院ニテ御遠慮ナク御聽キ下サイ

城 磐 共 濟 會
 電話六四一番

念 記 年 週 一 店 開

謝恩抽籤附大賣出し

◎期間 十月一日より八日迄
 ◎方法 御買上高五圓毎に抽籤券一本進呈

何卒此の機を逸せず御買上の程お勧め致します

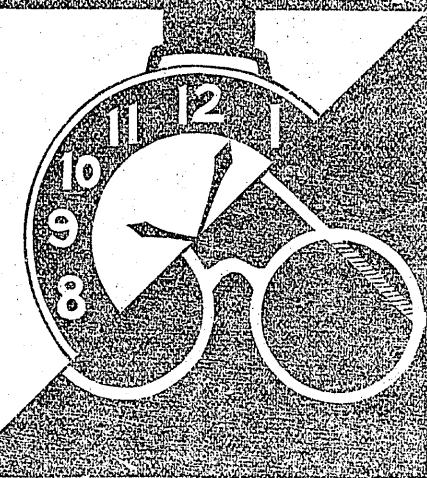
【二金五圓に對し】

一等	五割引	二人
二等	四割引	一人
三等	二割引	二人
四等	一割引	一人
四等	一割引	一〇〇人

全部空籤なし(但賣切れ次第ハ切) 其他金額の多少に不拘御買上の方には記念品を差上げます

山崎時計店
 平町五丁目新川町通り
 吉田屋染物店向ヒ

正確な時計



お客様本位の……

好適の眼鏡

吉田眼科病院
 平糺屋町、電話六八番

平糺屋町、電話六八番

月曜論説

安田中將の獅子吼待望

支那の暴虐非道は今始つた事ではないが、今回の滿洲事變を一轉期として彼等の無自覺な傍若無人的増長振りは一層の輪がかつた傳ふる處に依れば、支那の本土に於ては日本品を買ふな賣るなの日貨排斥を始めとし、日本人との雇傭關係を拒否し、更に小切手や爲替の取扱に應せぬといふ金融斷交を敢えて策せんとして居る、斯くの如く彼等は正に國交の斷絶を形の上

張りきつた胸に

兒童達の譽れ

競技大會結果

石城郡下第三方面小學校聯合競技大會は昨日午前八時から磐城中學校庭にて開催されたがこの日曇り空にて時々驟雨気味だったが各校選手は朝来より續々と集り元氣一杯ベストを盡して各自の技倆を遺憾なく發揮し午後五時閉會したがグラウンドは郡下の各父兄が參觀に來た爲め非常に賑はひを呈した當日の各競技一

- 高行 (内高) 渡邊要
◎トラツク(第一部)
△百 (飯野) 佐藤廣
(赤一) 矢野仁一 (小川)
柳内敏重 (同) 村山好子 (赤二) 福田金作 (平窪) 高田マヌ
△五十 (飯野) 草野マサヨ (同) 直井ユキ (同) 若松キヨシ (小川) 柴崎玉枝
△二百米 (平窪) 關場毅 (平窪) 福田房雄
△二百リレー (飯野) チーム
△四百リレー 飯野 平窪 小川
△八百リレー 赤井第一 平窪 赤井第二
△混成競技 (平窪) 尋六 福田龜雄 (小川) 高二大橋時宗
◎フィールド(第一部)
△バドミントン (内高) 小林吉太郎 (平三) 鈴木ひで (好間) 本間政男 (平二) 熊ヤス子 (同) 島津加津子 (同) 馬目勝子 (好間) 白渡作次
△砲丸投 (内高) 渡邊要
△三段跳本間政男 小林

一千名の坑夫が河川の改修に奉仕

磐炭で公休を利用して 村民と協力して
石城郡内郷村磐城炭礦では昨日の公休を利用して午前七時から約一千名の従業員を一度に出動せしめ内郷村民と協力し炭礦地帯を貫流する宮川の浚渫に奉仕した

高齡者招待

飯野運動會に

石城郡飯野村小學校では昨日午前七時より校庭に於いて秋期運動會を行ふが本年は同村青年團處女會青年團練所生等も参加し村内で七十歳以上の高齡者を全部招待すると

豐業徒弟

工賃値下打合

平疊業組合では三日午後一時より平町新藤屋旅館に於いて秋期總會を開き模範組合員夏井村片寄傳次郎氏に掛時計を贈り更に左記優良徒弟を表彰終つて時節柄工賃値下につき打合せをなした

松茸盛る

白岩附近

石城郡大野村白岩附近一帯は松茸の名所として知られてゐるが秋開けて今や松茸の出盛りとなり連日茸狩の人々で大賑ひをみせてゐるが相場は案外高値を示し現在百々七十五錢乃至八十錢である

不良車一掃

検査嚴重開始

最近石城郡々々における自動車網の發達に伴ひ之が事故も各方面に頻發し益々重大視するに至つたので本縣保安課ではこの主因を不良車體使用にあるものとし之が一掃をなすことになり既報の如く昨日より始つた平町に於ける平、四倉兩署管内の車體検査に際しては不良車をドン／＼廢止せしむる方針であると

平町物價

一等一キロ、一四五
二等同、一四〇
三等同、一三五
白米 同、九〇〇
平麥 同、一二〇
味噌 一貫目、五〇〇
醤油 一升、三五〇
清酒 同、九〇〇
桶丸一貫目、二〇〇
木炭 檜割 同、一五〇
雜丸 同、一七〇
砂糖 赤 同、一〇〇
白 同、一〇〇
豚上肉 同、四〇〇
同並 同、二五〇
牛上肉 同、四〇〇
同並 同、二五〇

石城藪取引状況

△四倉藪市場(十月四日)
(白藪) 一三九貫(最高) 三圓二錢(最低) 二圓五十五錢(馴) 二圓八十錢

平町人事

△北日町一 當時郡山市虎丸町 木謙四郎氏長男謙一
△安達郡白岩村大字長屋字浦門 渡藤清平(三六) 平町二丁目二四森藤キタイ(二三)

副業養鶏講習

石城郡植田町農會では副業養鶏講習會を六、七の兩日植田小學校講堂に開催するが講師は縣農會の新城技師である

馬匹共進二等賞

石城郡植田町諏訪關松氏は三日白河市場第四回馬匹共進會にて二等賞授與された

盗難が頻々と相次ぎ 物情騒然たる平町内

犯人の目星未だつかず 町民の不安募る

過般來平町内において長橋町から一、二丁目目貫通り五、六丁目、新川町お城山方面一帯に亘り軒並に荒し廻つた窃盗を初め恰も縣議戦を控へその方面の警戒が

手薄となつたのに乘じて各方面にコソ泥が横行し町内はさながら無警察状態を現出して町民はいづれも戦々慄々夜警團まで組織して之に備へたが犯人は未だに目星つかず町内は依然として物情騒然たる有様にあるが殊に昨今に至つては

自轉車専門の窃盗が出没し平署に對して盗難届は頻々と來り署員は總出動で之がい世相になつて來た

犯人探査に努めてゐる

眞最中 またもや昨四日午前九時ごろ六丁目佐藤某から自轉車盗難の届出があるなど署員もいさゝか狼狽氣味であるがこれまで既に平町役場の初め二三日中に平均五六臺の盗難被害がある等甚だ物騒至極となつてきたが夜分などは殊に氣を付けて所有者各自は夫々充分な

注意を拂はねばならず又不良ルンペン續出して晝間は各家庭を押賣りに出掛け夜間はまた屋内を覗ふ者もあるので戸締り等は余程嚴重にしなければならぬ

何者の悪戯か 線路に大石

木炭運搬車轉覆し 二名即死す

石城郡貝泊村官業製炭林道ガソリン車を根本直(三)が運轉し三日午前八時木炭八十俵

乗客六名 を乗せ同村字才鉢地内を進行中何者の悪戯か線路に大石を置いてあつたのに衝突し車体は横

倒しとなつた儘五十尺下の谷間に墜落し乗客中御所脇セキ(三)根本直(三)は胸部を強打即死前記根本機關手及び山田福次郎(三)の兩名は何れも胸部足部等に全治一ヶ月の打撲傷を受けたが、

急報により部落民が駆け付け車体の引上げを行つて居ると

狂女行衛不明 又もや大騒ぎ

既報平町紺屋町清水屋旅館方女中千葉縣生れ荒井マツ(三)が二日夜突然發狂して家人を驚かしたので同旅館ではその後一室に入れ監視

前借の子を 母親が連れ出す

東京市外梅島町千代田紡績會社で去月一日に雇入れた石城郡好間村字上好間高吉クマ三男清十(一)は去月六日第一日曜に外出中何者にか誘拐され行衛不明になつたが會社では前貸として三百圓渡してあるので其後調査すると清十の母クマが忍に好間へ連れ歸つた模様なので同會社から數日前平署に取押方を願出て居たが前記の場所には右様の者なくマシ(一)と會社が引かゝつた形である

鮮人の喧嘩 觀客に迷惑

昨夜七時半頃聚樂館にて見物中の平町材木町二〇〇居住朝鮮人金徳順外數名は泥酔して居た爲め仲間喧嘩を始め他の觀客にも迷惑を掛けたので平署に於て取調中

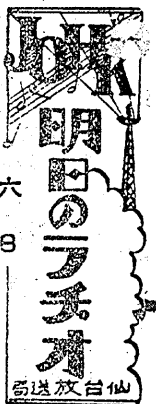
生活難で縊死 石城郡内郷村大字宮菓子商安達次五郎(六)は生活難から三日午前五時頃自宅に於いて縊死を遂げた

中であつたが昨夜十時頃家人の手薄となつた頃マツは室を飛出し其儘行衛不明となつたので同旅館では再び大騒となり直に平署へ取押方を願出たが何分狂人の事として如何になり行くかと家人も尋ねて居るが未だ判明しない

自動車の打撲傷を負ふ

勿飛ばさる

石城郡勿來町常盤自動車會社運轉手藤田正吉(三)が三日午後九時十分頃乗合自動車運轉し同町地内を疾走中誤つて同町の石井繁之助(三)を勿飛ばし右肩右大腿部に全治一週間を要する打撲傷を負はした



今晚の部
後六、〇〇(子供の時間)
「自轉車の歴史」根岸政一
後六、三〇 英語講座「初等科」(一)岡倉由三郎
後八、〇〇 清元明烏花濡衣(上下)淨瑠璃 清元梅葉 三味線 清元梅濱其他
後八、三〇 新講談「烈婦沼田香雪史女史」笹山道彦
後九、〇〇 掛合漫談「世界一週口栗毛」北原英太郎

明日の部
後九、四〇 時報全國ニュース 氣象通報 番組預告 生蘭相場
後九、〇〇 芝田英夫
後九、四〇 料理献立「蓮根の木の葉あげそば汁」
前二、〇〇、三〇 家庭講座「秋の園藝」(一)堀江志
後〇、〇五 俗曲「吹き寄せ」春風枝左松 三升家三喜之助
後二、二五 運動競技「野逆様に轉覆し傍の電柱を折り更に星山善七方の一部を破壊したが鈴木は幸ひ無事にて目下取調中

決勝戦にて 鴻池君惜敗

仙臺軟球協會主催第四回東北庭球オープントーナメントは昨日午前九時半より青葉莊コートに開催されたが元磐中選手兒玉君は仙臺專賣チームにて佐藤君と組んで出場第二回戦に敗れたが同じく鴻池君は近藤君と組んで出場決勝戦に至り惜しくも左のスコアにて敗れた

トミック轉覆 田町通りで 一時大騒ぎ

今日午後二時十分頃平町田町通り疾走中の菊池自動車部トミック九二三號運轉手鈴木末吉(三)は通行人を避けんとしてブレーキをかけた途端に加速度的ため最

眞正面から バスに轢る ピラを拾ふ子

三日午後四時二十分頃石城郡上遠野村自動車業後藤弘方運轉手小玉義春(三)が乗合自動車運轉中郡錦村大字大倉地内を疾走中活動のピラを拾はんとしてゐた同村の正木登二女(三)に衝突し前額部に全治三週間を要する裂傷を負はした

日本刀を盗む 石城郡植田町雜貨商、横田保吉(三)方に二日朝賊忍び込み同家傳來の日本刀一振時價百圓のものを窃取逃走したので植田警察署で犯人捜査の結果同町鍼力職松本三郎方職人武藤一郎(三)の所爲と判明三日朝檢舉された

球リーグ戦「早法一回戦」後六、〇〇(子供の時間)
「唱歌とピアノ」廣島高師附屬小學校児童 伴奏山本壽
後六、三〇 英語講座「中等科」第二講の四トーマスライエル
後七、三〇 副業講座「農村副業の實際に就て」一笹岡高幸
後八、〇〇 浪花節「齋藏内藏之助」吉田奈良子
後八、三〇 歌謡曲と新築曲 新築曲「草枕」新築曲 坂本歌都子他・歌謡曲「母のうた」他・歌謡曲「枝他」
後九、〇〇 ピアノ獨奏「三つの映像」他 A T シェクス

優勝旗は 平窪組獲得 御詠歌大會の 入賞者

既報赤井嶽十二神將銅像建立四周年記念第二回御詠歌大會は去る三日開演されたが御詠歌は宗教の民衆化として目下各地に流行を極めてある際なので早くも人氣大いに上り約五百名の團體及個人の參會者にて奉唱し審査の結果入賞者は左の如く決定優勝旗は團體一等の平窪組に授與された

- 入賞團體名
- 一等 平窪組
- 二等 赤井田町組
- 三等 北神谷組
- 入賞獨唱者
- 一等 平窪小野寺徳太郎
- 二等 神谷 江尻 スミ
- 同 赤井 齊藤 ステ
- 三等 神谷 木村 ヨノ
- 同 内郷 青木 久吉
- 同 平 小峰保次郎

小説 七三三

(五十二)

渡邊默禪作
布施平八郎畫

【載轉禁】

影法師 (1)

「はてな。誰だらう、若主人が今こゝに來られる筈はなし、外に奥さんの知合といふのも此の土地にはない筈だが訝しいこともあればあるものだなア。」

高野は首を傾げた、じつと耳を敏くすると艶めかしい郁子の肉聲と鈍れ合つて、低い調子の柔かな男の聲が洩れて來る。

をり／＼雲のかすめるやうに離房の圓窓にうつる一つのぼんやりとした扱ても不思議な影法師……輪廓のふやけた頭の工合では均らかな曲線を持つた顔の長目な髪を短かく刈り込んだ確かに男のやうに見えた。着てゐるのは和服ではない、高いカラがさつちりと咽喉に纏ひついて、横向きになつた時に、襟帯の結び目にとめたビンの角までが鮮やかに障子の上に描かれた。

高野の頭脳にはいろいろ／＼な想像が浮いた、けれどもそれは取止もないことばかりであつた。
「さあ、如何しようおさしあひ筋だとすると不意に飛込んで行くのもまづいなといつて何時までも待つてゐる

譯にはいかなしと、困つたなア、こりや。」

思の感つてゐるうちに。離房から呼鈴が懸つたのか勝手の方でデデュー——と音がした。間もなく留守番の婆さんが忙しい足取で廊下先を行きかゝつた。
高野は直ぐと廊下へ出て



「お婆さん。奥さんがお呼びになつのかね。」
「はい。いつの間にか裏口からお歸りになつたんでございませうよ、いつも此の傳でおどかされますんでね貴君、ホ……」
「アハ、然うか、お婆さん

「はい。」

婆さんが離房に入る時にはびたりと話聲が歇んでゐた。そして今まで映つてゐた影法師も消えて了つた。間もなく婆さんは戻つて來た。そして高野を二階座敷へ案内した。其處へ行つて

「お婆さん。奥さんがお呼びになつのかね。」
「はい。いつの間にか裏口からお歸りになつたんでございませうよ、いつも此の傳でおどかされますんでね貴君、ホ……」
「アハ、然うか、お婆さん

「はい。」

「どう遊ばしましたか。私こそ合点がまゐりませんですね。」
「いやばあさん、今確かにあの離房に男と女の話聲が聞えたし、しかもあり／＼と影法師が映つて見えたがね。」

「お婆さん。奥さんがお呼びになつのかね。」
「はい。いつの間にか裏口からお歸りになつたんでございませうよ、いつも此の傳でおどかされますんでね貴君、ホ……」
「アハ、然うか、お婆さん

正確な検査
無料検査
各眼科院御用
本根眼鏡店
電話 〇〇〇〇

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
電話三〇七番
平看護婦會

父繁儀本日葬送の際は遠路に不拘御會葬被下殊に御香奠を辱ふし難有奉存候早速拜趨御厚禮可申上處混雜中に付乍略儀以紙上不取敢御禮申上度如斯御座候
昭和六年十月五日
男 水野 隆
外親戚一同

お醤油は ヤマフル
醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部一〇番)
(醸造工場二七番)

かまぼこの
御用は藤寅へ……
儀式用 折詰仕出し
御惣菜用
吉原場
迅速
藤寅
平町一丁目
電話一四一番

上田外科醫院
平町南町
電話二一九番
一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雜誌が
自由に讀める
川崎文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)